

令和8年度 福岡市高速鉄道事業会計予算の概要

1. 予算

収益的収支	金額
収入	47,651 百万円
支出	39,811 百万円
差引	7,840 百万円
単年度損益 (消費税要素除く)	6,270 百万円

令和7年度末累積損益 Δ 82,787百万円
 令和8年度損益 6,270百万円
 令和8年度末累積損益 Δ 76,517百万円

資本的収支	金額
収入	27,557 百万円
支出	42,968 百万円
差引	Δ 15,411 百万円

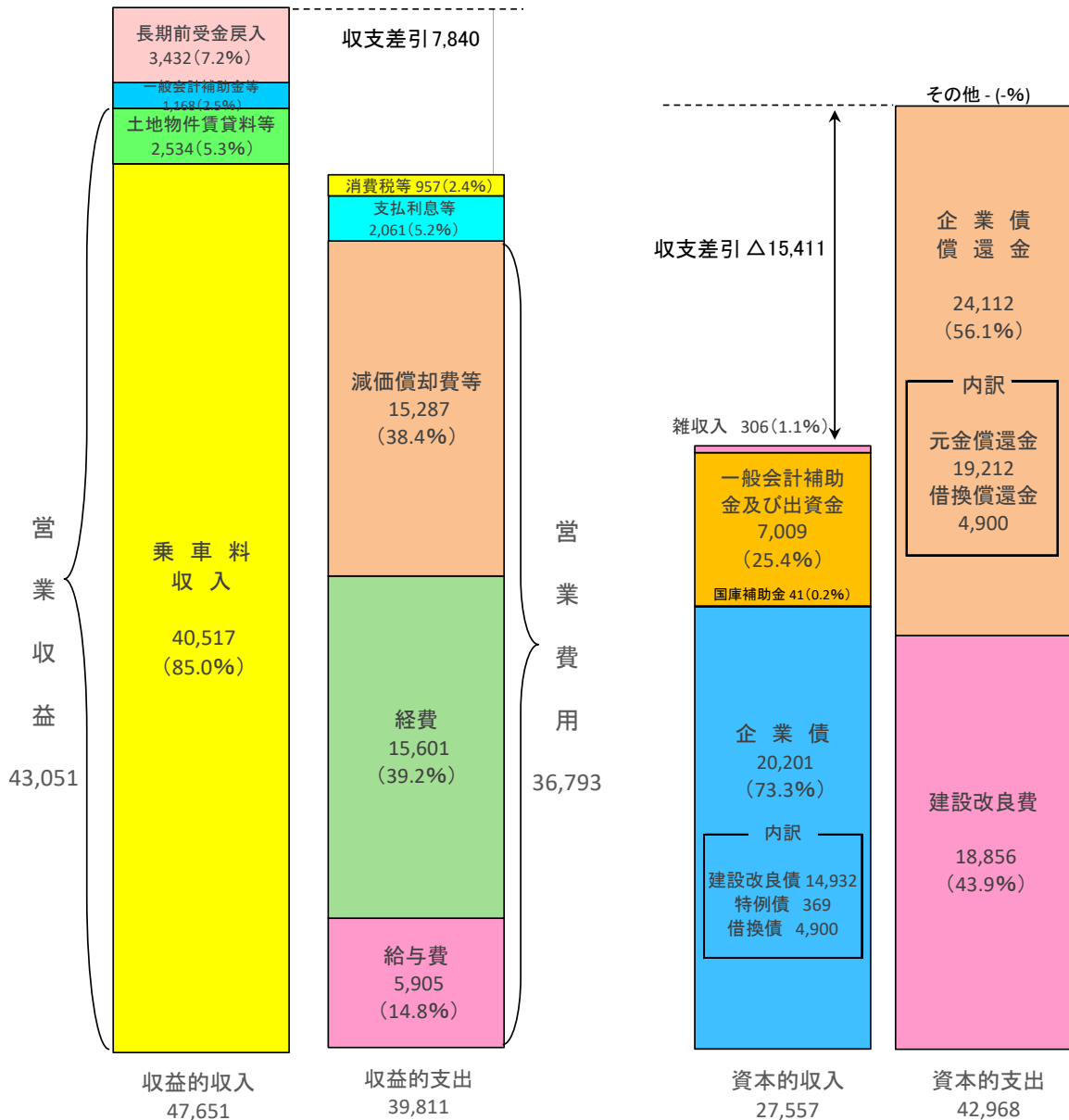
※ 減価償却費などの損益勘定留保資金等で補てん
 令和8年度末累積資金過不足額 22,813 百万円

収益的収支

(単位：百万円)

資本的収支

(単位：百万円)



2. 業務の予定量

(1) 営業路線及び営業キロ

空港線（1号線）	姪 浜 ～ 福岡 空港	13.1	キロメートル
箱崎線（2号線）	中 洲 川 端 ～ 貝 塚	4.7	キロメートル
七隈線（3号線）	橋 本 ～ 博 多	13.6	キロメートル
計		31.4	キロメートル

(2) 車 両 数 248両 (49編成)

(3) 年間走行キロメートル 21,139,363 キロメートル

(4) 年間輸送人員 208,378,500 人

(5) 一日平均輸送人員 570,900 人

○内訳	8年度	7年度	差引
空港・箱崎線 (a)	408,800 人	382,300 人	26,500 人
七隈線 (b)	162,100 人	149,100 人	13,000 人
全線計 (a) + (b)	570,900 人	531,400 人	39,500 人

3. 主要な建設改良事業

営業線改良事業 事業費 18,855,429 千円

4. 重要施策

()内は前年度予算額

(1)安全・安心

10,009,251千円 (8,074,904千円)

安全方針・安全行動規範を遵守し、地下鉄をより安全に、安心してご利用いただくための取り組みを推進する。

ア 安全への取り組み

9,821,657千円 (7,917,931千円)

トンネル等の土木構造物や変電所設備など、地下鉄の運行を支える施設・設備について、定期的な点検や先進技術を活用した詳細点検を実施し、その点検結果を踏まえた長期計画により補修・更新工事を実施する。

運用開始から約40年が経過した空港・箱崎線の車両（1000N系）や検修設備のほか、七隈線車両（3000系）の空調設備を更新する。

さらに、全職員への安全に関する教育訓練や、不測の事態が発生した場合のシミュレーション訓練等により職員の安全スキルのさらなる向上を図るとともに、PDCAサイクルによる継続的な安全管理体制の強化に取り組む。

イ 安心への取り組み

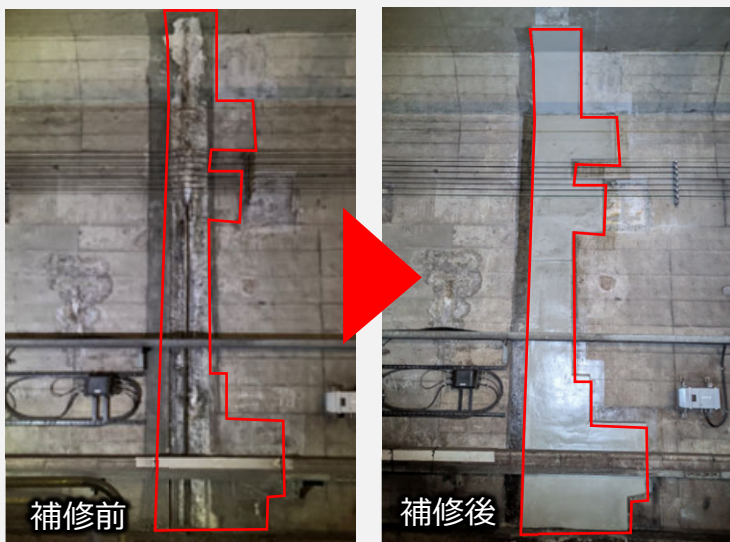
187,594千円 (156,973千円)

地下鉄車内やエスカレーターへの防犯カメラの増設や、駅係員・警察OB職員及び民間警備会社による巡回警備の実施等により、駅や車内における犯罪の未然防止に取り組み、より安心してご利用いただける環境づくりを推進する。

また、近隣施設や関係機関と連携した合同訓練の実施等により、地震や風水害等の自然災害への対応能力の向上を図る。

補修前

土木構造物補修工事



土木構造物点検



(単位：千円)

区分	令和8年度	令和7年度	比較増減	備考
ア 安全への取組み	9,821,657	7,917,931	1,903,726	
土木構造物補修	263,163	265,535	△ 2,372	トンネル断面修復 等
総事業費：1,942百万円（事業期間：令和5年度～令和14年度）				
変電所設備更新事業	155,738	761,618	△ 605,880	変電所高配用特高変圧設備更新工事 等
電気室設備更新事業	183,840	363,576	△ 179,736	電気室配電設備改良工事 等
空港・箱崎線車両（1000N系）更新事業	5,747,502	6,169,972	△ 422,470	新造車両の導入（5編成）
総事業費：21,441百万円（事業期間：令和3年度～令和9年度）				
車両検修設備更新事業	3,068,814	357,230	2,711,584	姪浜車両基地外車両検修機械設備更新工事 等
七隈線車両（3000系）空調設備更新事業	402,600	-	402,600	3000系車両の空調設備更新
総事業費：1,208百万円（事業期間：令和7年度～令和11年度）				
イ 安心への取組み	187,594	156,973	30,621	
車内防犯カメラの設置	57,562	79,629	△ 22,067	リアルタイム機能付き防犯カメラの設置
駅構内防犯カメラの設置	95,728	38,800	56,928	防犯カメラ増設（約200台：R7～R8）
車内及び駅構内巡回警備	34,304	38,544	△ 4,240	民間警備会社による巡回警備の実施
合計	10,009,251	8,074,904	1,934,347	



駅構内防犯カメラ



車内防犯カメラ

()内は前年度予算額

(2) 快適で質の高いサービス

5,078,771千円 (911,633千円)

お客様により満足いただける地下鉄を目指して、サービスや駅・車両の利便性をさらに向上させる取り組みを推進する。

ア 快適・便利な環境づくり

1,985,047千円 (885,813千円)

経年劣化が進む駅のリフレッシュを実施するとともに、駅的全館冷房化や昇降機の増設に取り組む。

ご高齢の方や車いす・ベビーカーをご利用の方など、誰もが気持ちよく利用できるよう、車両優先スペースを改修するとともに、AIの活用等によるエスカレーター安全利用の促進や、乗降マナーの啓発など、「ユニバーサル都市・福岡」にふさわしい取り組みを推進する。

さらに、お客様の利便性向上のため、令和9年度中のモバイル定期券導入に向け取り組むとともに、令和10年度を目途に、老朽化した改札機の更新に合わせて、磁気券を廃止し、QR乗車券の導入を進める。

イ 質の高いサービスの提供

3,093,724千円 (25,820千円)

七隈線の混雑緩和に向け、令和8年度から9年度で4編成を増備するとともに、さらなる対策として6両編成化の検討を進める。

また、地下鉄の利便性向上のため、全線での終電時間の延長を行うほか、博多駅及び福岡空港駅に駅コンシェルジュを配置する。

さらに、多様化するニーズについて、お客様の声や満足度調査等により把握・分析し、今後のサービス展開に繋げる。



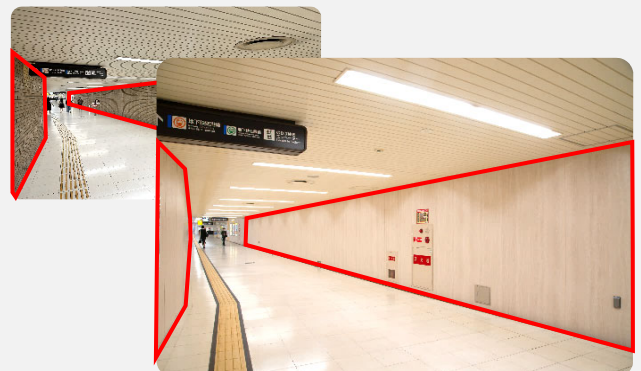
参考 西新駅
エレベーター増設のイメージ



地下駅的全館冷房化のイメージ



車内優先スペースの改修



駅のリフレッシュ（コンコース壁面）

(単位：千円)

区分	令和8年度	令和7年度	比較増減	備考
ア 快適・便利な環境づくり	1,985,047	885,813	1,099,234	
駅のリフレッシュ	355,280	399,745	△ 44,465	壁面等の改修 (室見駅、大濠公園駅)
地下駅の全館冷房化の推進	1,251,901	184,524	1,067,377	設置工事5駅、実施設計5駅
昇降機の増設	192,139	40,868	151,271	実施設計等 (大濠公園駅、中洲川端駅)
車両の優先席・スペースの改修	136,977	154,339	△ 17,362	優先席・スペースの改修
エスカレーター安全利用促進	6,187	17,838	△ 11,651	A Iやサインを活用した安全 利用促進
案内サインの改良	42,563	88,499	△ 45,936	誘導案内サイン等のマナー啓 発
イ 質の高いサービスの提供	3,093,724	25,820	3,067,904	
七隈線車両の増備	3,015,590	-	3,015,590	3000A系車両の増備 (2編成)
七隈線6両編成化	5,000	-	5,000	七隈線6両編成化の検討
ミッドナイト・トレインの実施	40,518	-	40,518	地下鉄全線で月曜から土曜日 の終電時刻延長
インバウンド対策	31,549	24,278	7,271	地下鉄駅コンシェルジュ、外国 語サポートサービス、外国人等 の動態調査
お客様満足度調査	1,067	1,542	△ 475	多様化するお客様のニーズ把 握
合計	5,078,771	911,633	4,167,138	



エスカレーター安全利用促進サイン (イメージ)

博多駅コンシェルジュ
外国人対応の様子

()内は前年度予算額

(3) まちづくり・環境配慮

2,782,774千円 (2,599,453千円)

都市と共に発展する地下鉄を目指して、まちづくりと連携した利便性向上の取組みに加え、環境にやさしい公共交通機関として脱炭素の取組みを推進する。

ア まちづくりへの取組み

114,129千円 (26,452千円)

開発事業者などと連携した駅施設の改良等により、まちづくりに合わせた駅の利便性向上を推進する。

また、都市交通基本計画の位置づけに沿って、福岡空港や姪浜橋本間の延伸の実現可能性の検討を進める。

イ 環境配慮の取組み

2,668,645千円 (2,573,001千円)

駅照明等のLED化により、消費エネルギーの抑制に取り組むほか、地下鉄用電力における再生可能エネルギー由来電力の利用を継続するなど、脱炭素社会の実現に向けた取組みを推進する。



地下鉄フェスタ



環境配慮の取組み (交通局ホームページより)

(4) 事業を支える経営基盤

35,011千円 (22,858千円)

将来にわたって持続可能な地下鉄を目指して、事業を安定的に支える経営基盤づくりの取組みを推進する。

ア 収益の確保

18,081千円 (11,629千円)

ドームイベントを始めイベント開催時の臨時列車を増便する。

また、沿線の集客施設や商業施設とタイアップしたキャンペーンの開催等により、幅広いお客様の利用を促進する。

さらに、車内デジタルサイネージの拡充や魅力的な駅ナカ店舗の誘致等により、収益の確保に取り組む。

イ 未来の地下鉄事業を支える人材の育成

16,930千円 (11,229千円)

将来にわたって安定的に地下鉄事業を継続するため、計画的な職員採用に加え、専任の技術指導教官の配置や民間企業への職員の派遣による人材育成などに取り組む、安全・安心を支える技術力の継承・向上を着実に推進する。

(単位：千円)

区分	令和8年度	令和7年度	比較増減	備考
ア まちづくりへの取組み	114,129	26,452	87,677	
貝塚駅のリニューアル	92,467	15,137	77,330	貝塚駅の内外装改修工事に着手
地下鉄の機能強化	5,000	-	5,000	地下鉄延伸の実現可能性の検討
地下鉄フェスタの開催	16,662	11,315	5,347	地下鉄フェスタ開催経費
イ 環境配慮の取組み	2,668,645	2,573,001	95,644	
駅照明等のLED化	125,189	386,081	△ 260,892	電照広告のLED化
総事業費：2,875百万円（事業期間：平成23年度～令和9年度）				
再生可能エネルギー由来電力の利用推進	2,543,456 (157,517)	2,186,920 (135,969)	356,536 (21,548)	地下鉄の運行に必要な電気料金（括弧内は電気料金のうち再エネ指定に要する費用）
合計	2,782,774	2,599,453	183,321	

(単位：千円)

区分	令和8年度	令和7年度	比較増減	備考
ア 収益の確保	18,081	11,629	6,452	
増収・増客対策	14,428	7,989	6,439	多客対応、九州MaaS等
沿線施設とのタイアップ等	3,653	3,640	13	沿線の集客施設や商業施設とのタイアップ等
イ 未来の地下鉄事業を支える人材の育成	16,930	11,229	5,701	
安定的な人材の確保及び育成等	16,930	11,229	5,701	鉄道技術講座等研修経費、求人広告掲載等
合計	35,011	22,858	12,153	